

(分野名) 9 メディアにおける女性の人権の尊重

(施策名) (1) インターネット等新たなメディアにおけるルールの確立に向けた検討
(コンテンツ安心マーク)

1 主な施策の取組状況及び評価

・インターネット上における違法・有害情報に起因する事件・犯罪が多発していることから、このような状況に対処し、利用者がコンテンツの安心・安全性を容易に判断できる環境を確立するため、コンテンツの安心・安全性を示すコンテンツ安心マーク（仮称）制度の創設に向けた調査研究を年度内を目途に実施。

2 今後の方向性、検討課題等

・マーク制度の実効性を拡大するため、今年度を含め継続的にインターネットコンテンツに係る幅広い関係者からの意見を反映させ、更に検討を深めていく。

・マーク制度の在り方に関する調査研究を進める中で、コンテンツ安心マーク（仮称）を付与されたサイトのみ閲覧を可能とするアクセス制御システムについての検討を行う。

3 参考データ、関連政策評価等

(分野名) 9 メディアにおける女性の人権の尊重

(施策名) (1) イ インターネット等新たなメディアにおけるルールの確立に向けた検討
(モバイルフィルタリング技術の研究開発)

1 主な施策の取組状況及び評価

児童を有害コンテンツ（出会い系サイト、アダルトサイト等）から保護するためには、フィルタリング（見せたくない内容、与えたくない情報を含むサイトを閲覧できないようにする機能）の利用が有効であるが、この機能は、パソコン向けには実現・普及している一方、モバイル（携帯電話、PHS）向けには開発・実現されていない。

（注：出会い系サイトを利用した児童買春事件の97%でモバイルが使用。）

こうした背景を受け、モバイル向けのフィルタリング技術を開発・実現するため、平成16年度、「モバイルフィルタリング技術の研究開発」として予算を確保。（平成16～17年度の2年計画）

現在、本研究開発の委託先である財団法人インターネット協会が6月に設置した「モバイルフィルタリング技術研究会」（携帯電話事業者、フィルタリング事業者、学識経験者等から構成）において、研究開発が進められており、具体的には、これまで、有害モバイルコンテンツの調査やモバイルフィルタリング方式の調査・検討を行ってきたところ。

これまでのところ、モバイルフィルタリング技術の開発・実現に向け、関係者が前向きに検討を進めてきており、平成17年度末の完成に向け、引き続き取り組みを継続する必要がある。

2 今後の方向性、検討課題等

今後も、平成17年度中の開発完了に向け、システム開発及び実証実験等に取り組む。
モバイルフィルタリングがビジネスベースで普及するような仕組みを作り上げていくことが必要。

3 参考データ、関連政策評価等

インターネット上におけるコンテンツ市場

	平成13年	平成14年	平成15年
パソコン(個人)市場	271 億円	438 億円	767 億円
携帯電話市場	542 億円	828 億円	1,133 億円

出典：平成16年版情報通信白書